



「風に向かって」

教頭 川原 智司

月日が経つのは早いもので、学校を取り囲む山々は赤く色付き、いよいよ師走を迎えようとしています。3年生は目前に迫っているセンター試験に向けて全力を傾注する日々を送っていますが、1・2年生は年度末にかけて催される幾つかの学校行事に参加する機会があります。

その中の一つに、2年生が取り組む「凧あげ大会」が挙げられます。一昨年度までは12月に行われ、昨年度からは1月に実施されるようになったと聞いています。ちなみに、私が生徒として在籍していた当時、1年次には3月の学力検査（高校入試）の後に、2・3年次には国立大学の個別学力試験直前の2月中旬に実施されていました（念のため、事務室に残されていた資料により確認しました。）。見学する立場となった3年次では、特別編成授業の狭間に自学をしていた図書室で、宅地造成が進む「南陽台団地」を背景にしなが、澄み切った青空の下で高く舞い上がる凧を目にして、勇気付けられたことを記憶しています。

ところで、凧をはじめ鳥や航空機は、揚力と呼ばれる力を利用して空を飛ぶことができます。この揚力は、流体中を運動する物体に対してその運動方向に垂直で上向きに作用することから、航空機等の物体は風上に向かって離・発着することでより効率的に揚力を得ることができます。また、揚力は風力が強いほど大きくなるという特性が知られています。

学校や社会において物事を進めていく際には、順風満帆である時よりも、向かい風に立ち向かっていくことが多いのではないかと思います。3年生については卒業後の進路実現に向けて、1・2年生については大学入試制度が大きく変わろうとする中で情報収集を含めた対応に加え、日常的にも学習と部活動の両立を図っていくといった、乗り越えなければならない様々な課題に対し、人生のそれぞれの局面において正対し続けていくことになることと察します。

また、私たちを取り巻く社会の在り方も大きく変わろうとしています。歴史学者で『ホモ・デウス』等の著書で知られるヘブライ大学（イスラエル）のユヴァル・ノア・ハラリ教授は、人類が直面していく課題が三つあるとした上で、人工知能とバイオテクノロジーの進歩は今後20～40年の間に経済、政治の仕組み及び人々の暮らしを完全に変わるとともに、人間では不可能な量の情報を集めて分析することができるアルゴリズム（計算方法）により世界が支配される可能性があることを示唆しています。

こうした時代を生き抜いていくためには、世の中の流れを感じながら、自分自身の特性をしっかりと捉えていくことが求められています。間もなく令和元年は幕を閉じようとしています、それぞれが年の瀬に今年一年を振り返りつつ、世の中を流れる風に立ち向かい、効果的に「揚力」を得ながら先を見据えて更なる飛躍を遂げていくことを期待しています。

＝ 令和元年度後期生徒総会＝

11月7日(木)に実施した『令和元年度後期生徒総会』では、今年度の前期活動報告をはじめ、後期の活動予定、各専門委員長による所信表明など様々な議案について全校生徒で話し合いました。特に、先日行ったアンケートで寄せられた意見をもとに活発な議論が交わされました。

次年度に向けて、今後ますます本校の生徒会活動が活性化していくことを期待します。

～生徒会長から一言～

今回の生徒総会は、後夜祭を始めとする、新しい試みについての意見や要望が多く挙げられました。時間の都合上満足いかない結果となってしまった部分もありますので、今後、生徒会で方針を整え、報告します。当日の活発な意見、事前アンケートのご協力ありがとうございました。



☆ 理数科講義および課題研究中間発表会（理数科1・2年生） ☆

11月8日(金)5校時に、理数科1・2年生を対象とした理数科講義が行われ、「電気エネルギーの現状とこれからの課題」と題して、長崎大学大学院工学研究科 藤島友之 准教授より講話をいただきました。

また、6校時には理数科2年生が課題研究中間発表会として、3名の長崎大学の先生方の前でポスター発表を行い、様々な指導助言をいただきました。発表会後の7校時にはプレゼンテーション講習会がありました。3月3日(火)の最終発表会に向けての準備に入りました。



☆ 乳幼児ふれあい体験（1年） ☆

11月12日(火)～15日(金)の4日間、陽の丘寮で乳幼児ふれあい体験学習を行いました。たくさんの乳幼児親子の皆さんにご協力いただき、生徒達は充実した体験学習を行うことができました。あまり乳幼児とふれあう機会がない生徒も多い中、子育て中のお母さん方のお話を聞くことができ大変貴重な体験となりました。



～生徒の感想～

- ・お母さんは子どもの事をとても大事に思っていることを改めて知りました。出産はとても辛く、子どもの夜泣きも大変だったとお聞きました。嬉しい事ばかりではない事も知ったので、もっと自分の親に感謝したいと思います。(3組男子)
- ・赤ちゃんは、私たち以上に好奇心が旺盛であること、また、新しいものを見るとそれを自分の場所にもってくること、赤ちゃんのお世話は思っている以上に大変で寝などが難しいということ、身長などは今の私たちより発達していて成長が早いということ、1歳ごろになると自分でしたいと思うようになることなどいろいろなことを学びました。(6組女子)

長崎地区公立高等学校PTA 研修会（報告）

11月16日(土)、長崎県総合福祉センターで行われた研修会に、本校からも51名の保護者と教職員が参加しました。研修では、「未来を担う高校生の保護者として 今、考えるべきこと」と題した、佐賀県立鹿島高等学校 教頭である笹谷留里子先生による講演や、長崎県成高等学校、長崎鶴洋高等学校のPTA 活動報告などが行われました。お忙しい中ご参加くださいました保護者の皆様、本当にありがとうございました。今後とも、PTA 活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

1 学年

自分の将来について考える

1 学年主任 守 慶直

先日、文理・科目選択の最終確認票を提出してもらいました。今後の進路の方向性を決める大切な選択で、1年生の皆さんも自分の将来を見据え、進路について保護者の方と一緒に真剣に考えてくれたことと思います。また悩んでいる人もいると思いますが、しっかりと自分と向き合い、自分のやりたいこと、学びたいことを探してください。学年目標のサブタイトルに『可能性は∞(無限大)』とあるように、これからの過ごし方次第で、道はいくつもの方向に開けていくのではないのでしょうか。皆さんの頑張りを楽しみます。

また、1年生の3学期を2年生の0学期と捉え、2年生になる準備をしてほしいと思います。2学期も残り1ヵ月。ここまでやり残したことがあれば12月中には終わらせ、新年を迎えたらもうすぐ進級、中堅学年になるという意識を高めていきたいですね。

2 学年

メリハリをつける

2 学年主任 林 圭介

よく話題に上がる高校生活の三本柱に「学習・部活動・学校行事」というものがありますが、みなさんはどのように取り組んでいるのでしょうか。それぞれの時間にけじめをつけ、それなりの結果を出さなければ、その他のことに真剣に打ち込めなくなります。特に学習で結果を残せない場合は、他にかける時間を削らなくてはなりません。

学習もそうですが、嫌なことから逃げずにはいませんか。何かにきちんと向き合いそれに取り組むことで、興味が出てやる気も起こる、ということを知ることがあります。何事も多少は好きにならないと上達はしません。「天賦の才」という言葉がありますが、生まれつきこれをやろうと決めていたという人はいないでしょう。周囲の人の働きかけや環境などがきっかけとなって、様々なことに興味を持ち、取り組んでいくものです。

授業の内容なども含めてですが、いろんなことに興味を持って、視野を広げていてもらいたいと思います。

3 学年

最後まであきらめない

3 学年主任 下村かおり

センター試験まで50日あまりとなりました。今回は、自分の可能性を追求して日々努力する39回生に、思わず使ってしまう英語表現を3つ紹介したいと思います。

① You have to turn over a new leaf.

“turn over a new leaf”は、「気持ちを切り替える」という意味です。誰でも失敗はするし、気分が落ち込むこともあります。すぐに気持ちを切り替えて、次のステップに進んでいきましょう。

② Don't lose heart until the last moment.

“lose heart”とは「やる気をなくす、くじける」という意味です。つまり、この文は、“Never give up!”ということなのです。

③ I'm in the homestretch now.

“homestretch”とは、競走や競馬などのゴール前の直線コースのこと。そこから意味が変じて、“in the homestretch”というのは、仕事や勉強の最終局面、追い込みのことを指します。つまり、この文は「私は今、最後の追い込みに入っている」という意味です。

最後の追い込みでは、どんなランナーでも絶対に手を抜かずに必死に走ります。これまでの努力を無にしないよう、最後の最後まで諦めず、全力で走り抜きましょう。



部活動	陸上競技部	◎長崎県高等学校総合体育大会 駅伝競走 男子第6位、女子第11位 ◎長崎県高等学校新人体育大会 陸上競技 女子4×100m 第1位 佐土原千尋、部原 ひな、隈元 麻衣、三宅ひかり 女子400mH 第1位 隈元 麻衣、女子やり投げ 第2位 平松委穂里 女子100mH 第2位 三宅ひかり、第3位 部原 ひな (九州大会出場) ◎全九州高等学校新人体育大会 陸上競技 女子やり投げ 第5位 平松委穂里
	登山部	◎長崎県高等学校新人体育大会 登山競技 男子優勝(13連覇)、女子優勝(4連覇)
	テニス部	◎第42回全国選抜テニス競技長崎県大会 男子団体 準優勝、女子団体 第3位 ◎長崎県高等学校新人体育大会 テニス競技 男子団体 準優勝 女子個人シングルス 優勝 村上 令 ◎全国選抜高校テニス大会九州地区Aブロック大会 男子団体、女子団体 出場
	ラグビー部	◎第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会長崎県大会 優勝(全国大会出場)
	卓球部	◎長崎県高等学校新人体育大会 卓球競技 女子団体 第3位(九州大会出場)
	弓道部	◎第38回全国高等学校弓道選抜大会長崎県予選会 女子団体 第3位
	放送部	◎第41回九州高校放送コンテスト長崎県大会 アナウンス部門 優秀賞 藤本和佳菜(九州大会出場) ラジオ番組部門 優秀賞(九州大会出場) テレビ部門 優良賞
	生物部	◎第63回日本学生科学賞長崎県大会 最優秀賞「スガイに着生するカイゴロモの謎」(中央最終審査進出(東京)) 最優秀賞「フジツボの着生に関する研究」 ◎長崎県高等学校総合文化祭科学研究発表大会 (口頭発表部門) 優秀賞「微生物で地球を救え!~生物電池の実用化を目指して~」(九州大会出場) (展示発表部門) 最優秀賞「フトヘナタリの木登り行動に関する研究 ~なぜ登る?その適応意義を考える~」(全国大会、九州大会出場) 優秀賞「マキガイイソギンチャクの研究~マキガイイソギンチャクのアラムシロへの着生は「便乗」?~」(九州大会出場) 優秀賞「長崎の磯焼けを食い止める!Ⅲ~ヒジキの種苗生産の確立を目指して~」(九州大会出場)
	美術部	◎長崎県高等学校総合文化祭美術部門 優良賞 山中真梨奈 入選 田平彩乃 宮原優花 井田結月
	部以外	弁論 ◎第66回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール長崎県大会 優良賞 田平彩乃 英語 ◎第28回 長崎県高等学校英語スピーチコンテスト 優勝 廣里志穂(九州大会出場) ◎第22回 長崎純心大学英语オーラルコミュニケーションコンテスト 準優勝 高谷耀子

<12月の主な行事予定>

1日(日) 校外マーク模試(3年)	15日(日) 校外マーク模試(3年)
3日(火)~5日(木) 1年理数科研修旅行	18日(水)~23日(月) 三者面談(全学年:午後)
7日(土) G-TEC(1・2年)	21日(土) 土曜自学(全学年)
土曜自学(3年)	24日(火) 大掃除、終業式
12日(木) 健脚くらべ(1・2年)	25日(水)~27日(金) 冬季自学(全学年)
(予備日:17日(火))	28日(土) 冬季自学(3年)
14日(土) 校外実力試験(1・2年)	29日(日)・30日(月) プレテスト(3年)
校外マーク模試(3年)	